

平成29年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立妻沼高等学校)

目指す学校像	自己を高め、規律を守り、目標に向かって羽ばたくことができる生徒を育てる学校
--------	---------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かりやすい授業・伸ばす授業を実践する。 「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 体験活動・キャリア教育等を実践し、進路意識を高め、一人一人の進路実現を図る。 地域と連携し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 成績優秀者、皆勤者が増加する一方、転退学者がやや増加傾向にある。</p> <p>【課題】 学習習慣や基礎基本の定着を必要とする生徒、大学等への進学を希望する生徒など、本校に寄せる様々な期待に応える取組を一層推進する必要がある。</p>	カルティベートタイム(CT)を軸とした教育活動の更なる充実と支援体制の継続	<ol style="list-style-type: none"> ①全教職員によるCTの共通理解 ②1学期欠点者に対する補習・追考査の実施とスクールバスの運行(7月夏季休業期間) ③英検、漢検等の各種検定試験の受検指導の充実 ④教育課程の検証・改善 ⑤公務員講座の継続実施 	<ol style="list-style-type: none"> ①CT研修会の実施(年2回) ①CT委員会の開催(毎月) ①判定テストの平均点の向上(10%) ②生徒授業満足度の向上(80%以上) ②欠点保有者の減少、転退学者の減少 ③受検者の増加、合格者の増加 ④学び直しから大学進学まで対応できる教育課程の編制(平成30年度入学生) ④授業改善週間の充実 ⑤外部関係組織との連携 	<ol style="list-style-type: none"> ①CT委員会を毎月開催し、教材の見直し、評価の在り方等について、継続的に検討を重ねることができた。また、年度当初にCT研修会を実施し、新転任者への意思統一を図った。判定テストは3月に実施予定。 ②欠点保有者に対する追考査を毎学期実施した。授業満足度は69.2%(昨年度比マイナス0.5ポイント)であった。また、成績優良者が増加する一方、中途退学者、転学者などが増加するなど、生徒の二極化傾向が顕著に表れた。 ③補習体制が確立され、英検2級、漢検2級などの資格取得者が増加した。 ④平成30年度入学生の教育課程を、生徒の実態に合わせて見直すことができた。 ④互いに学び合う授業公開と改善に向けた研修会を実施した。 ⑤公務員講座の継続実施ができなかった。 	B	<p>【課題】 ・「成績優良者、皆勤者」と「中途退学者、転学者、問題行動のある生徒」の二極化の解消</p> <p>【改善策】 ・今年度毎月実施したCT委員会を、来年度も毎月開催し、継続して生徒の実態に合わせた教材選定等に取り組む。 ・校内の学び合いのネットワークを更に推進し、授業公開・改善週間の実施以外にも意見交換できる場を設定する。また、他校の公開授業等にも積極的に参加する。 ・長期休業中の補習日程に合わせたスクールバスの運行を検討する。 ・授業時間の確保(学校行事等の見直し)について検討する。</p>
2	<p>【現状】 全教職員の努力により、「落ち着いて良い学校になった。」という評価をいただけるようになった。</p> <p>【課題】 生徒情報の共有化、生徒指導体制の更なる充実を図り、全生徒にTPOの大切さを教えていく必要がある。</p>	本校の指導基本「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の徹底及び保護者、外部専門機関等との協力体制の確立	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶指導を含む校門・登校指導、遅刻指導の実施 ②整容(服装、頭髪)指導の実施 ③LHRや総合的な学習の時間を活用した、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室、ネットトラブル防止教室等の実施 ④清掃活動、校内美化の取組、防災意識の向上 ⑤生徒情報の共有化 ⑥外部専門家(SC、特別支援巡回支援員、日本語CA等)や、外部専門関係機関等を活用した生徒支援 ⑦全教職員による「礼儀・身だしなみ・時間厳守」指導の実施 	<ol style="list-style-type: none"> ①欠席、遅刻、早退者の減少 ①授業規律(挨拶、チャイム着席など)の確立 ②規律違反者の減少 ③問題行動による指導件数の減少 ③中途退学者の減少 ④授業環境の整備 ⑤少人数を生かした個別指導の取組 ⑥問題行動等の事前予防、早期解決 ⑦教職員の団結、保護者の協力体制の構築 	<ol style="list-style-type: none"> ①時間厳守の意識を醸成させるため、年間5回の登校指導を実施した結果、皆勤者数が前年度に比べ増加した。 ②生徒アンケートの結果、母校となる妻沼高校を良くしたいと思わない生徒が25.4%もいた。 ③生徒指導件数が、1年生を中心に昨年度より大きく増加した。また、年度途中の中途退学者も増加した。 ④破損箇所の速やかな修繕、清掃指導の徹底に努め、校内美化を実現した。 ⑤数学・英語(1年)、選択科目において少人数授業を行い、基礎学力の定着に努めた。 ⑥⑦スクールカウンセラー、日本語コミュニケーションアドバイザーとの連携を密にし、生徒・保護者からの要望等に的確に対応することができた。また、昨年度から導入した生徒情報ファイルを活用し、個々の生徒の特性に応じた生徒指導を行うことができた。 	B	<p>【課題】 ・全ての生徒に愛校心を持たせる</p> <p>【改善策】 ・校歌を歌う機会を増やす。 ・特別支援に関する研修会を継続的に実施する。 ・スクールカウンセラーとの情報共有を一層密にし、生徒の心のケアに努める。 ・外部専門機関(警察、児童相談所等)等と連携し、問題行動の事後対応ではなく、問題行動が生ずる前又は早期に解決・対応できる体制づくりを行う。</p>
3	<p>【現状】 学校紹介による就職希望者は全員内定し、卒業生の進路決定率も90%を超えることができた。</p> <p>【課題】 全卒業生の希望進路の実現に向け、引き続き3年間を見通したキャリア教育を計画的・組織的に行っていく必要がある。</p>	全ての生徒の希望進路の実現に向け、将来の目標、希望を早期に意識させる進路指導体制の構築	<ol style="list-style-type: none"> ①進路追跡調査、過去データの分析 ②進路決定率と就職内定率(学校紹介)の向上及び早期離職防止策の検討 ③外部関係組織(熊谷市、商工会、ハローワーク、りそな銀行等)との協力・連携 ④基礎学力の向上を目指した取組の継続 ⑤日常生活での挨拶、礼儀、言葉遣いの励行 ⑥対人能力や表現力向上への取組 ⑦「進路報告会」の実施 ⑧就職支援アドバイザーの活用 	<ol style="list-style-type: none"> ①効果的な進路計画の立案 ①「進路の手引き」の活用(随時) ②進路決定率90%、就職内定率100%(学校紹介) ③④地元企業との関係強化(企業説明会の実施、熊谷市商工会との連携) ④生徒の希望に応じた補習や出前授業(看護・介護)の実施(随時) ⑤挨拶、礼儀、正しい言葉遣いの習慣化(企業等の来客者評価の向上) ③⑥⑧段階的な面接指導(他校との合同集団模擬面接、PTA・ハローワーク・就職支援アドバイザーによる模擬面接の実施) ⑦3年生が1、2年生に進路に対する心構えや体験を伝える「進路報告会」の実施 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路の手引きを活用し、計画的な進路指導を実現した。 ②12月末現在、進路決定率79.0%、就職内定率91.0%(学校紹介) ③地元企業等(熊谷市、ハローワーク、熊谷市商工会、りそな銀行)と連携した就職説明会を実施した。(初の取組) ④長期休業期間を活用した補習を実施した。 ⑤指導の成果が実り、規範意識(礼儀・身だしなみ・時間厳守)を身につけた生徒が増え、集会等における態度が向上した。 ⑥⑧PTA模擬面接(9月2日)、ハローワークによる面接(9月14日、15日)、就職支援アドバイザーによる面接指導を45日実施した。 ⑦3年生から1、2年生に対して進路に対する心構えや意気込みを伝える進路報告会を、1月25日に実施予定。(初の取組) 	B	<p>【課題】 ・入学時から将来の進路について考えさせる</p> <p>【改善策】 ・地元企業等と連携した就職指導を継続実施する。 ・3年生による進路報告会は、直接、1・2年生に話をするこで響いたと思う。また、生徒同士で行うので自主性も育つ。先輩のアドバイスは大切なことと評価できる取組である。 ・どのような進路を考えたら良いか分からない生徒がいる中でも、面倒を見てくれるのが妻沼高校の進路指導だと感謝している。 ・卒業後、仕事を辞めた生徒の手助けをすることができないのは心苦しいことではあるが、支援していただくと助かる。</p>
4	<p>【現状】 以前に比べ部活に加入し活動する生徒、大会に出場する部が増えたことで学校に活気が出てきた。</p> <p>【課題】 部活動の加入率を更に向上させるとともに、学校行事の活性化を図っていく必要がある。</p>	学校行事、部活動等を通して、心身ともに豊かな人間性の向上と学校の活性化の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①PTA・後援会と連携した学校行事の実施 ②近隣小学校、中学校及び地域との連携 ③生徒会活動の更なる充実 ④部活動加入率の向上、大会への参加 ⑤ホームページによる活動状況の広報 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校行事、PTA・後援会活動への保護者参加者数の増加 ②長井小学校との交流事業に関わる生徒の増加 ②妻沼東、妻沼西、奈良中学校との連携 ②地元開催行事への参加 ③生徒会役員の増加、各種行事への参加 ③生徒の満足度チェック(事後アンケート) ④部活動加入率の向上(20%) ④9月以降の継続率の向上(70%) ④各種大会への参加率の向上 ⑤学校行事、部活動等の随時発信、更新 	<ol style="list-style-type: none"> ①節目ごとに保護者宛て一斉メールを配信し、学校行事等について周知を図った。 ①PTA行事への参加者が昨年度と比べて大きく増加した。 ②ボランティア部と生徒会が、6月23日、11月16日に長井小学校との交流会に参加した。 ②市内3中学校と高校授業体験を7月3日に実施し、高等学校教育の周知を図った。 ②生徒会、吹奏楽部等が、8月5日にめぬま祭りに参加した。 ③各行事後に実施した生徒アンケートによる満足度が向上した。 ④部活動の加入率は、39.6%(昨年度比プラス1.9ポイント)であった。 ④公式戦、展覧会で成果を上げる部活動が増加した。 ⑤ホームページの閲覧者が増加し、学校の情報を広く提供することができた。 	B	<p>【課題】 ・活気あふれる学校づくり</p> <p>【改善策】 ・部活動加入者の増加、活性化、放課後の有効活用等について検討する。 ・発信情報をリツイートしてくれる妻沼高校のファンを増やす方策について検討する。 ・地元開催行事等に引き続き積極的に参加し、学校アピールに努める。 ・PTA活動の更なる活性化を図り、総会、理事会等、保護者の来校回数を増やす。 ・PTA・後援会・同窓会と連携し、創立40周年記念行事開催に向けた準備に校内一丸となって取り組む。</p>

学校関係者評価	実施日 平成30年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が生徒一人一人と向き合っていることが分かる取組である。二極化した生徒には、普段の授業の取組と学年の横のつながりが大切である。そのための情報交換は特に大切である。 ・教育課程を考える際、多様化した生徒のことを考えなければならない。 ・今年度毎月実施したCT委員会を、来年度も毎月開催し、継続して生徒の実態に合わせた教材選定等に取り組む。 ・校内の学び合いのネットワークを更に推進し、授業公開・改善週間の実施以外にも意見交換できる場を設定する。また、他校の公開授業等にも積極的に参加する。 ・長期休業中の補習日程に合わせたスクールバスの運行を検討する。 ・授業時間の確保(学校行事等の見直し)について検討する。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・凡事徹底(挨拶、身だしなみ)が必要。廊下ですれ違っても挨拶できない生徒や制服の着方が正しくない生徒がいる。見守りながらも指導する必要がある。 ・当たり前のことができない生徒がいるので授業をする上で問題となることもあると思う。また、何らかの課題を抱えている生徒には、スクールカウンセラーや臨床心理士などの外部専門家の力を借りることは有効である。 ・校歌を歌える生徒が少しずつではあるが増えてきた。定着させるために日常的に校歌を流したらどうか。校歌が響き渡ると学校が変わると思う。 ・時間を守ることはできるようになった。2年生になると落ち着くが1年生には課題が多い。 ・愛校心を持たせるためには、一人一人の価値を高め、一人一人を見て育てなければならない。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者の決定率が100%は素晴らしいことである。面接指導や地元企業の説明会など新しい取組が何点もなされていて良いことである。今後も継続してください。 ・3年生による進路報告会は、直接、1・2年生に話をするこで響いたと思う。また、生徒同士で行うので自主性も育つ。先輩のアドバイスは大切なことと評価できる取組である。 ・どのような進路を考えたら良いか分からない生徒がいる中でも、面倒を見てくれるのが妻沼高校の進路指導だと感謝している。 ・卒業後、仕事を辞めた生徒の手助けをすることができないのは心苦しいことではあるが、支援していただくと助かる。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を活性化し、剣道場などの施設が有効活用されるためにも部活動の外部指導者を導入したらどうか。 ・40周年記念事業で「タイムカプセル」など生徒会を中心に皆でできる取組を考えたらどうか。 ・「開かれた学校づくり」を推進するために生徒会などの活動が広がっている。更に地元の聖天様の掃除・落ち葉拾いなどの行事に参加することも検討してください。 ・PTAを更に献祭や進路行事などに活用してください。保護者はとても協力的であると思う。 ・同窓会を機能させ、PTA、後援会とともに40周年事業に参画させる必要がある。